

2021しずおか木造塾 第5講座 (植栽・設計)

しずおか木造塾委員会 早津 和之

■ I 部：「効果的な植栽のススメ」

山崎誠子 (植栽家・東京)

□ 住宅の植栽計画の基本

- (1) デザインの方向性を決めるのは、環境と管理
日本の環境は植物が豊かになるようになってい
る。
- (2) 植物の成長には、『光・土・水・適切な温度』
が必要である。
- (3) 樹木の形状 (材料を発注するときの目安)
 - ・幹周は地上から1.2mの部分で一番重要
 - ・他に樹高と葉張り (樹冠径)
 - ・ヤシ類は今、人気で高額
- (4) 施工時期と施工手順で、工事費と植栽が変わる
 - ・落葉樹=秋と春 常緑樹=春 竹=梅雨
 - ・1に水やり、2に水やり。⇒水やりに配慮

□ 植栽計画のポイント

- (1) 管理動線と風を確保する。
 - ・植物が育つために、どれだけの空間が必要か。
針葉樹の根は、下に向かい広がらない。

□ 住宅に向く樹種と特徴

- (1) 程よい高さ、管理が楽、安全、四季を楽しむ
 - ・高木は避け、中木に低木を添える
ヤマボウシ、ベニバナトキワマンサクなど
低木 (ローズマリー、ギンバイカなど)
- (2) 実例 (講師著書多数。参考になります)
 - ・季節感を大事にする。 ・周囲を取り込む。
 - ・狭い間口でも少しの緑でイメージアップ
 - ・シーンを創造する。(参考) 「世界で一番やさしい住宅用植栽

増補改訂カラー版」

(エクスナレッジ発行)

■ II 部：「モジュール (寸法) と無垢材利用」

竹原義二 (建築家・大阪)

日本の文化から畳文化が消えようとしている!

畳2枚=一坪・正方形、平面図が重要!

□ "モジュール"="調和"

- (1) 調和の始まり=美を感じる。
 - ・ピラミッド、パルテノン神殿 (黄金比1:1.618)
 - ・身の回りにある比例=紙の大きさ (1:√2)
 - ・ブックデザインや絵画の構図も同様に適用
 - ・日本建築における比例 (差金による規矩術な
ど)
黄金比と√2⇒茶室の構成 (待庵、如庵等)
 - ・建物配置、平面、窓に全体から細部に至るま
でその調和が潜んでいる。 スケール感。
⇒そのバランス感覚を建築等を感じとっていく。

□ 建設事例

- (1) 認定こども園 さざなみの森 (広島市)
 - ・敷地は子どもたちが落ち葉を集めて楽しむ場
所
建物形状:葉っぱをモチーフにデザイン
壁:スギ材でログ工法+ちょうな仕上げ
- (2) 牛田の家 (2016)
 - ・無柱空間を覆う大らかなギャブル屋根とそ
れを支えるヒューマンスケールなピッチの柱
- (3) 小郡幼稚園 (山口)
 - ・合板は使わず、杉材を使いたい (オーナーの
要望)
 - ・縦ログ構法 (120×180角、9,000本の杉) と石
州瓦を使用し、雁行で建物配置。
 - ・日本の技術力を活かした設計は、大工が墨付
けできる今ならできる。当たり前のことを見
直す。